

会員募集中!

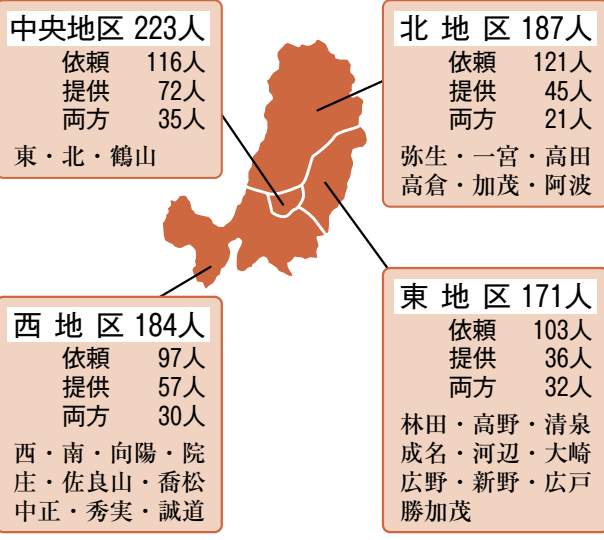
応援
するであなただの子育て



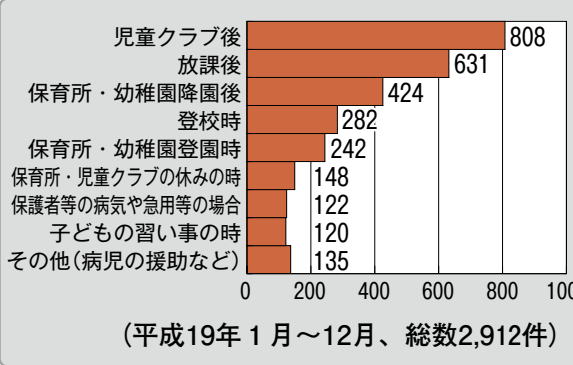
津山ファミリー・サポート・センターは平成12年の開設から今年で8年目を迎え、その間、徐々に地域に子育ての輪が広がってきました。
ファミ・サポは子育てを手伝ってほしい人(依頼会員)と子育てを手伝いたい人(提供会員)が会員となり、互いにサポート活動を行っています。
子育てを手伝ってほしい人、手伝いたい人は、当センターへお気軽に連絡してください。

●地区別会員数

会員総数は765人(依頼会員437人、提供会員210人、両方会員118人)。小学校区により4地区に分けた会員数は次のとおりです。(12月31日現在)



●預かりや送迎などの援助
内容と件数



問い合わせ先 津山ファミリー・サポート・センター(津山男女共同参画センター「さん・さん」内) ☎ 31・8753

市政アドバイザーからの
津山への提言



朝日新聞月刊『論座』
編集長 薬師寺 克行さん(東京都)

今回は朝日新聞社で政治、外交などの分野を中心に幅広く活躍の薬師寺克行さんから提言をいただきました。母校の喬松小学校には薬師寺さんが寄贈した書籍(薬師寺文庫)があり、子どもたちに親しまれています。

「知恵の競争」の時代

今、桑山博之市長に何かをお願いするとすれば皆さんはどんなことをあげますか。

先日、日本一おいしいお米の産地で知られる新潟県魚沼市を訪ねた時、星野芳昭市長が「予算について市民の皆さんに要望を聞くと、9割が道路整備です」と話してくれました。総務省の新しい局長さんにこの話をすると「本当に道路整備が必要なのではなく、他に何を市長にお願いしていいか思いつかないのですよ」と説明してくれました。

多分、多くの自治体で同じことが起きているのでしょう。私の田舎の旧久米町では、人里離れたお墓につながる一人しか歩けないような細い道まで舗装されています(これには驚きました！)。

国と地方自治体は膨大な借金

を抱えています。これからは高齢者が増え、税金を納める若者が減っていきま。限られた財源をいかに有効に使っていくかが大切な時代になってきました。

東京都は70歳以上の人を対象に年間千円で地下鉄やバスを利用できるシルバーパスを発行しています。公共交通機関の少ない津山で同じことをやっても歓迎されないでしょう。しかし、高齢者にとっては膨大な予算を使って道路整備をするよりも、バスの便を増やしたり、無料や低額のタクシーが使えるように補助金を出す方が、病院や買い物に行くには便利なのです。新しい時代には合った新しい知恵が、市民の生活を豊かにするのです。少ない予算をうまく使う「知恵の競争」の時代到来です。

薬師寺克行

●やくしじ かつゆき 昭和30年津山市(旧久米町)生まれ。津山高校、東京大学卒業。朝日新聞論説委員、編集委員などを歴任し、平成17年から現職。京都大学公共政策大学院客員教授も務める。著書は『外務省』(岩波書店)ほか多数。



支所

1月13日「第29回津山市久米地域新春ロードレース大会」が開催されました。

中北下の久米総合文化運動公園を発着点に宮部地区で折り返すマラソンの部と駅伝の部で健脚を競いました。

小学生から一般まで、マラソンの部に89人、駅伝の部には9チーム45人が参加し、沿道からの声援を受けながら、各部門の選手が新春の宮部路を駆け抜けました。



久米支所

一年のスタート

加茂支所

加茂・阿波交流体操演技大会
一年を締めくくる



12月15日、加茂町スポーツセンターで「2007加茂・阿波交流体操演技大会」が開催され、鉄棒や平均台など男女各3種目に53人が出場し、日頃の練習の成果を十分に発揮しました。

加茂の体操はオリンピック選手を輩出するなど、多くの選手を育て、平成13年に完成したこの体操練習場は合宿で県内外から多く利用されています。

「津山っ子こころのふれあいトーク」開催

“聴いてみよう 子どもの言い分 大人からのアプローチ”



問い合わせ先 青少年育成センター ☎ 32・2120

平成19年度
街づくり人づくり
クリーン作戦
アピール集会

とき 3月2日(日)午前9時～10時30分
ところ 北陵中学校
内容 「津山っ子を守り育てる市民の会」が行った環境浄化活動の発表とアピール宣言

子どもの健やかな育成のために、地域やPTA、学校関係者で作られた「津山っ子を守り育てる市民の会」では、昨年12月15日、各中学校から参加した中学生14人と大人130人で意見交換会を開催しました。

今年度のテーマは「早寝・早起き・朝ごはん、携帯電話、いじめ問題」。中学生はテーマごとに自分の体験や学校内での様子からの視点で発表し、それに対して会場の大人からも意見が活発に出されました。

例年にも増して、子どもの考え方や思いが聞け、今後の青少年健全育成活動の参考となりました。